

■ナッジ理論と創造技法を活用する サービスデザイン研修



研修の目標観

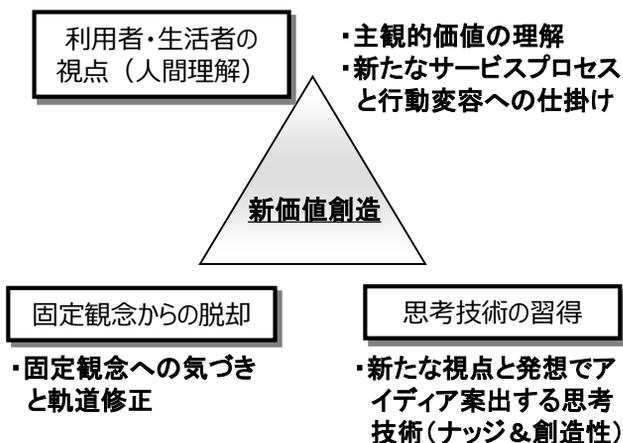
自治体で広く活用され始めている「ナッジ理論との活用方法」を学び、利用者・生活者視点に基づくサービス開発に役立てる（サービスデザイン思考力を開発する）。

1. 人々の行動変容を促す考え方・手法である「ナッジ」について理解を深める。
2. ナッジ活用の前提となる「人間理解」を深める諸観点について理解を深める。
3. ナッジの行政サービスや組織変革における活用の可能性を探る。
4. 利用者・生活者視点に基づくサービスアイデア案出の方法を習得する。



研修のポイント

1. ナッジとは何か
…「知らないが有用なもの」を正しく理解する。
2. なぜナッジが必要か
…それが求められる背景や意義を理解する。
3. どんな場面で活用できるのか
…活用事例を基に身近なものとして捉え生かす動機を喚起する。
4. どんな手法・方法があるのか
…思考技術（創造技法）を習得してサービスアイデアを生み出す（実務に生かす）



※下記プログラムは一例です。貴組織のご要望に合わせてプログラムをご提案させていただきます。

研修の内容・タイムスケジュール

進め方・手法

	研修の内容・タイムスケジュール	進め方・手法
午前	<p>情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナッジとは何か？なぜナッジが求められるのか？ ・行政サービスにおけるマーケティング <p>演習1「マーケティングプロセスの変遷」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人検討⇒話し合い⇒新たなマーケティングプロセス <p>演習2「利用者生活者視点のサービスプロセス」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視点の切り換え（ショートケースによる理解促進） 	<p>講義と情報交換</p> <p>個人演習⇒グループ演習⇒解説・情報提供</p> <p>個人演習⇒グループ演習⇒解説・情報提供</p>
午後	<p>情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者生活者が求める客観的価値と主観的価値 ・ナッジ理論とその身近な活用事例、成果 ・固定観念や思い込みからの脱却 <p>演習3「身近なテーマのサービスアイデアの案出」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創造技法の紹介と基本演習 ・リアルテーマへの応用 <p>振り返りと職場適用</p>	<p>講義と情報交換</p> <p>個人演習⇒グループ演習</p> <p>個人演習⇒グループ編集⇒解説・情報提供</p> <p>個人演習⇒グループ演習</p>